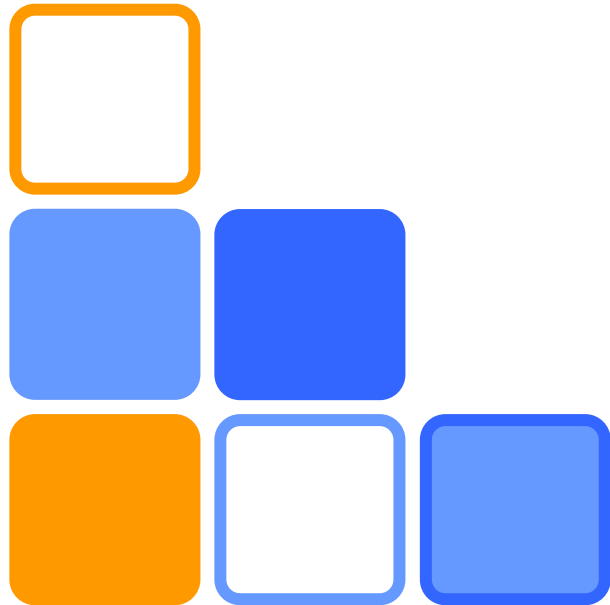


学校教育の現状と課題・ スクールセラピストの提案



SAS教育チーム
スクールセラピスト・ジャパン



教育現場の現状

- 近年核家族化が進むと共に、共働きの家が増加し子育てに時間が割けない家庭が多い
- 家庭教育がおろそかになっている分、学校教育への過剰な期待が増える
- 学校教員の業務の煩雑化と指導力低下が指摘されている
- 勉強での相談やそれ以外のことでも、生徒と向き合える人が学校に常駐してない
- 公立校での学習環境の悪化を理由に、私立校受験をするため塾通いする生徒が増える

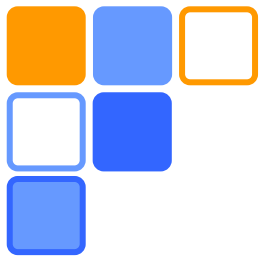
**教育の場である「学校」「家庭」において、
教育ができなくなりつつある**



生徒たちの現状

- 学校と塾・習い事に通うと、遊ぶ時間が無い
- ゲームやインターネットでのバーチャルなコミュニケーションでの時間が増加
- 外での遊びが減り、対面でのコミュニケーションがおろそかになってきている
- 朝御飯を食べずに学校に来る生徒が増える傾向にあり、精神的に不安定な部分もある
- 先生は業務に追われ、親も仕事が忙しく、生徒とじっくり話す機会がない場合もある

生活の乱れにより、心と身体が不安定な状態



スクールカウンセラーとは

平成7年度より文部省が、いじめや非行等の対策として導入

役割	<ul style="list-style-type: none">・生徒たちからの相談(メイン)・教員への研修、保護者からの相談・学校に対する提案や医療機関などとの連携
業務形態	<p>非常勤(週1回) カウンセラールームで実施、予約制が多い</p>
資格	<p>臨床心理士*など児童生徒の臨床心理に関して、 高度に専門的な知識・経験を有する者</p> <p>* 臨床心理学の知識や技術を用いて 心理的な問題を取り扱う「心の専門家」</p>
現状	<p>採用資格の偏り</p> <ul style="list-style-type: none">・公立中学:臨床心理士しかねない・公立小学校、高校、私立校、サポート校、専門学校は 民間カウンセラー可 <p>普及していない</p> <ul style="list-style-type: none">公立:全校配置できていない私立:東京で3分の2程度

スクールカウンセラーの問題点

役割	<ul style="list-style-type: none">・生徒たちからの相談(メイン)・教員への研修、保護者からの相談・学校に対する提案や医療機関などとの連携	<p><問題点></p> <p>自分の悩みを上手く表現できない生徒 →解決までに地道な交流が必要 (時間がかかる)</p>
業務形態	<p>非常勤(週1-2回) カウンセラールームで実施、予約制が多い</p>	<p>生徒は気軽に利用しにくい カウンセラーは情報不足になりやすい</p>
資格	<p>臨床心理士*など児童生徒の臨床心理に関して、 高度に専門的な知識・経験を有する者</p> <p>*臨床心理学の知識や技術を用いて 心理的な問題を取り扱う「心の専門家」</p>	<p>カウンセラーの解決手法が、心理学的手法中心</p>
現状	<p>採用資格の偏り</p> <ul style="list-style-type: none">・公立中学:臨床心理士しかねない・公立小学校、高校、私立校、サポート校、専門学校は 民間カウンセラー可 <p>普及していない</p> <p>公立:全校配置できていない 私立:東京で3分の2程度</p>	<p>心理学のプロしかねない →人財不足、人脈の偏り</p>

スクールカウンセラーの問題点

役割	<ul style="list-style-type: none">・生徒たちからの相談(メイン)・教員への研修、保護者からの相談・学校に対する提案や医療機関などとの連携	<p><問題点></p> <p>自分の悩みを上手く表現できない生徒 →解決までに地道な交流が必要 (時間がかかる)</p> <p>時間</p>
業務形態	<p>非常勤(週1-2回) カウンセラールームで実施、予約制が多い</p>	<p>生徒は気軽に利用しにくい カウンセラーは情報不足になりやすい</p> <p>情報</p>
資格	<p>臨床心理士*など児童生徒の臨床心理に関して、 高度に専門的な知識・経験を有する者</p> <p>*臨床心理学の知識や技術を用いて 心理的な問題を取り扱う「心の専門家」</p>	<p>カウンセラーの解決手法が、心理学的手法中心</p> <p>ヒト</p>
現状	<p>採用資格の偏り</p> <ul style="list-style-type: none">・公立中学:臨床心理士しかねれない・公立小学校、高校、私立校、サポート校、専門学校は 民間カウンセラー可 <p>普及していない</p> <p>公立:全校配置できていない 私立:東京で3分の2程度</p>	<p>心理学のプロしかねれない →人財不足、人脈の偏り</p> <p>ヒト</p>

⇒ヒト・時間・場所・情報の問題を
解決する制度更新する必要性

スクールセラピストとは

スクールセラピスト

スクールカウンセラー

役割

生徒、先生、保護者からの相談
学校に対する提案や医療機関との連携

- ・生徒たちからの相談(メイン)
- ・教員への研修、保護者からの相談
- ・学校に対する提案や医療機関などとの連携

業務形態

常勤
通常授業に教員補助として参加
デスクは職員室に

非常勤(週1-2回)
カウンセラールームで実施、予約制が多い

資格

学校独自の採用基準
(例えば、一芸採用も可)

臨床心理士*など児童生徒の臨床心理に関して、
高度に専門的な知識・経験を有する者

*臨床心理学の知識や技術を用いて
心理的な問題を取り扱う「心の専門家」



教育の現場で先生と協働作業

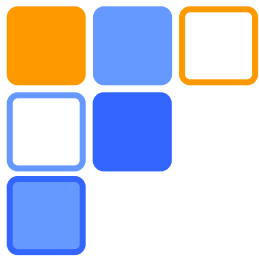
学問の教育は「先生」
心の教育は「セラピスト」

採用資格の偏り

- ・公立中学:臨床心理士しかねない
- ・公立小学校、高校、私立校、サポート校、専門学校は
民間カウンセラー可

普及していない

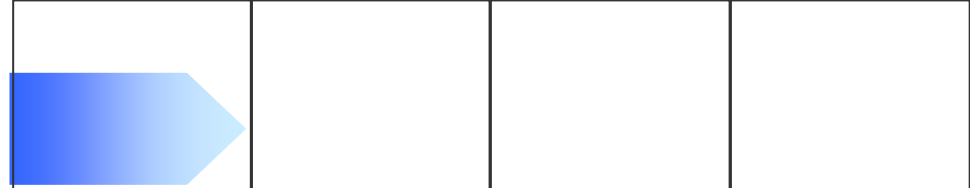
- 公立:全校配置できていない
- 私立:東京で3分の2程度



課題と実施スケジュール

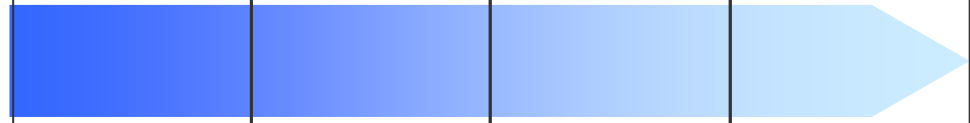
短期
～1年 中期
～3年 中期
～5年 長期
～10年

制度の明確化



賛同者の拡大

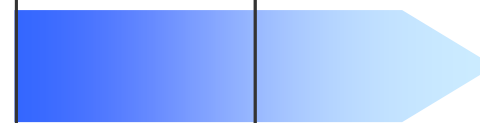
協働者(活動仲間)



賛助者



制度化への仕組みづくり



セラピスト人材の確保





まとめ

- “教育現場の荒廃”と“生徒の不安定な状態”から、生徒の心をケアする必要がある
- 現状のスクールカウンセラー制度では限界がある
- 今後、スクールカウンセラーの欠点を補った制度（スクールセラピスト制度）を提案していく



最後に

SASでの活動を通して、
“個人の問題意識”を“メンバーの問題意識”に
変えることができました。
今後は、みんなの(社会の)問題意識に昇華できるように
活動にしていきたいです。

私たちの活動を支えてくれた皆様に感謝いたします。

和田さん(小田原市教育長)

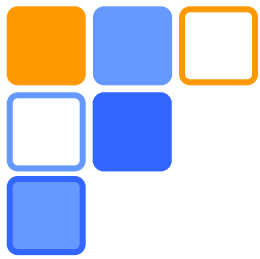
渡壁さん(東京女学館高校教諭)

岩本先生(元スクールカウンセラー、現企業カウンセラー)

堀井先生(足立区立加賀中学校副校長)

SASの皆様

ありがとうございました





スクールセラピストの提案

- スクールカウンセラーとの違い
週一回ではなく、常勤
相談室にいるのではなく、各教室を巡回
勉強から生活面での相談まで受け付ける
- カウンセリングではないので、臨床心理士とクライアントという関係ではない
- セラピストというネーミングの通り、生徒たちを癒すことが活動の主体
- 成績をつける教員でもなく、親でもない存在
- 幅広い経験があり生徒の支えとなり励ませる

スクールセラピストとは

スクールセラピスト

スクールカウンセラー

平成7年度より文部省が
いじめや非行等の対策として導入

生徒、先生、保護者からの相談/協働
学校に対する提案や医療機関などとの連携

相互交流の深化 談(メイン)

- ・教員への研修、保護者からの相談
- ・学校に対する提案や医療機関などとの連携

役割

業務形態

常勤
通常授業に教員補助として参加
デスクは職員室に

活動時間と場所を増やす

- ⇒情報が入りやすい環境へ
- ⇒交流しやすい環境へ

資格

学校独自の採用基準
(例えば、一芸採用も可)

臨床心理士はなく児童生徒の臨床心理に関して、
経験を有する者

多彩な人材の確保

- ⇒解決手法の多様化により
- 個々に適した解決が可能

現状

採用資格の偏り

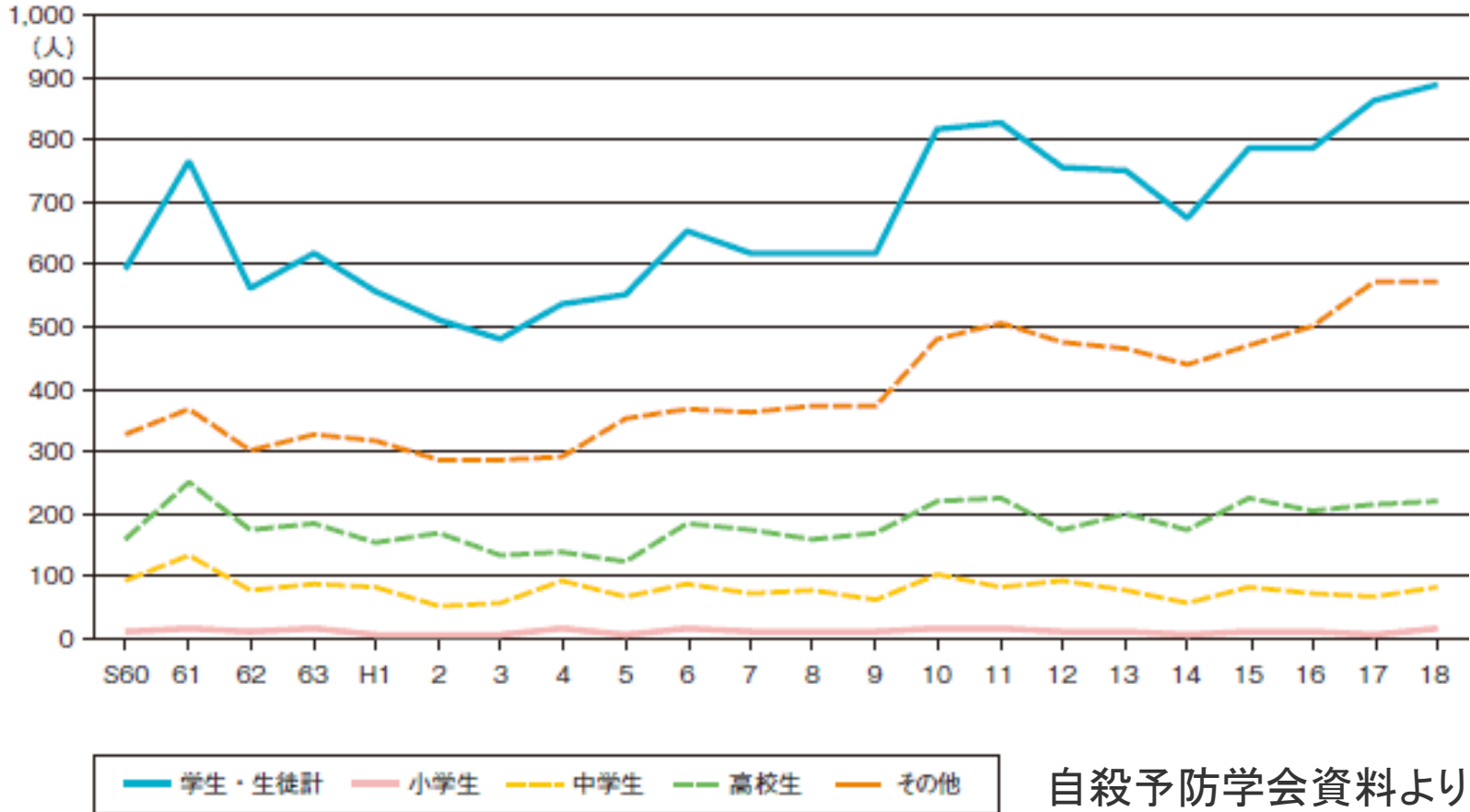
- ・公立中学:臨床心理士しかねれない
- ・公立小学校、高校、私立校、サポート校、専門学校は
民間カウンセラー可

心の教育は「セラピスト」
学問の教育は「先生」

普及していない

- 公立:全校配置できていない
- 私立:東京で3分の2程度

学生・生徒の自殺者数の推移



自殺予防学会資料より